

今回の評価作業について

1 立地特性

(1) 地形

管理型最終処分場を建設するにあたっての施工の容易性、施設用地の確保の容易性、埋立効率について評価する。

(評価) 地形

区 分	評価
施工面、施設用地の確保面、埋立効率の面から処分場整備が困難	×
施工面、施設用地の確保面、埋立効率の面から検討を要する	
施工が容易、施設用地の確保が容易、埋立効率が良い	

(2) 地質

地盤改良の必要性や透水性について評価する。

(評価) 地質

区 分	評価
地盤改良の必要性がある。透水性が高く遮水対策が必要。	
地盤改良の必要がなく、難透水性である。	

(3) 土地利用

現状の土地利用状況について評価する。

(評価) 土地利用

区 分	評価
埋立済みであったり、道路が新設されているなどして処分場整備が困難	×
農用地区域に指定されているなど調整を要する	
現状の土地利用状況から施設整備に問題なし	

(4) 道路状況

アクセス道路の新設及び拡張の必要性、季節・天候による交通規制状況について評価する。

(評価) アクセス道路の新設・拡張が必要な距離

	0 ~ 1km未満	1km以上 ~ 2km未満	2km以上
評 価			×

整備必要区間：既存の道路が無い場合は新設とし、幅員 5 m未満は拡幅とする。

全ての候補地について、季節・天候による交通規制状況はない。

(5) 既存の最終処分場との位置関係

既存の産業廃棄物管理型最終処分場及び一般廃棄物最終処分場からの位置関係を評価する。

(評価) 位置関係

区 分	評価
既存の最終処分場が同一市町村内にある	
既存の最終処分場が2km以内にある	
上記以外	

(6) 市町村等開発計画への影響

市町村等の開発計画への影響を評価する。

(評価) 開発計画

区 分	評価
開発計画があり、施設整備が困難	×
開発計画との調整を要する	
開発計画なし	

2 環境特性

(1) 河川状況

流下河川の状況について評価する。

(評価) 河川状況

区 分	評価
下流域が県外である	
上記以外	

(2) 景観

景観上の配慮の必要性について評価する。

(評価) 景観

区 分	評価
住宅や公道等から見えやすく景観への配慮が必要	
上記以外	

(3) 市町村指定環境保護区への影響

市町村指定環境保護区への影響を評価する。

(評価) 市町村指定環境保護区への影響

区 分	評価
市町村指定の環境保護区への影響がある	×
上記以外	

3 安全性

(1) 住宅状況

現地踏査により、住宅の位置を把握し影響を評価する。

(評価) 住宅からの距離

	0 ~ 100m未満	100m以上
評 価	×	

(2) 利水状況

水道水源への影響について評価する。

(評価) 水道水源との位置関係

区 分	評価
距離が1 km以上	
距離が1 km未満で、水道水源が候補地の 上流又は別の谷に位置する	
距離が1 km未満で、水道水源が候補地の 下流に位置する	×

(3) 公共施設の位置関係

小中学校との位置関係を把握し、影響を評価する。

(評価) 小中学校からの距離

区 分	評価
小中学校からの距離500m以上	
小中学校からの距離500m未満	×

(4) 流域状況

候補地に流れ込む流域の広さを把握し、影響を評価する。

(評価) 流域状況

区 分	評価
流域が広く転流工が大きくなる	
上記以外	

(5) 危険箇所

地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、ため池危険箇所、山腹崩壊危険箇所、崩壊土砂流出危険箇所との位置関係を把握し、危険性について評価する。

(評価) 危険箇所

区 分	評価
危険性がある	×
危険性はない	

4 その他

その他観光資源等への影響を評価する。

(評価) その他

区 分	評価
影響があり施設整備が困難	×
影響が考えられ施設整備にあたっては、 配慮が必要	
上記以外	

* なお、経済性については、次回の評価とする。